

新年あけましておめでどう
ございます。

正月休み、炎症をお持ちの
方は、少食にしてお餅を控え
ると楽になります。疲れが溜
まって、回復力が低下してい
る方には黒豆の煮汁が消化器
の働きを助けてくれますので、
お勧めです。

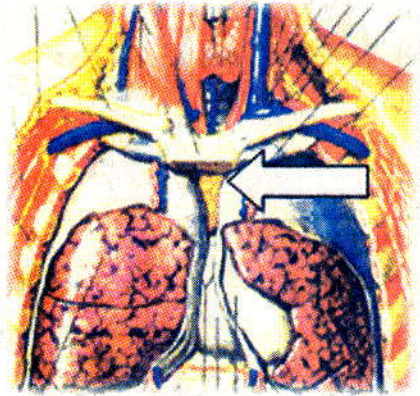
さて、昨年十二月九、十日
両日「あいち健康プラザ」で
「日本代替・相補・伝統医療
連合会議と日本統合医療学会
の合同大会」が開催されまし
た。大会は多数の参加者によ
り、大盛況の内に終わりました。
同会は、理事長の渥美和
彦東大名誉教授が、西洋・東
洋・民間医療も取り入れて、
政府へ要請するために立ち上
げた学会です。

大会ではレニン酵素研究の
第一人者として知られている
筑波大学名誉教授の村上和雄
先生が「元氣な白血球が、体
を守り、病氣は治るようにな
っている」ということについ
て講演され、私も自著「がん
の盲点 白血病はがんではない
」について説明させていただ
きました。また、自然医学
総合研究所のブースでは、抹
消血流測定のほか血管年齢測
定や血液画像分析を多くの方
に体験していただくことがで
き、大盛況で終えることがで
きました。

さて今回はリンパ球の減少
する原因について考察しま
す。一般に、がんに罹患して
いる患者さんのリンパ球は、
20%前後と少なく、通常の35
%を下回って計測されるケー
スがほとんどです。

現在、西洋医学の手法とし
て、注目を浴びているのが、
患者のリンパ球を取り出し体
外で増殖させたものを戻すと
いう方法です。しかし、最先
端の医療として登場したこの
方法でも、リンパ球が減少し
た真因までは解決できていま
せん。

胸椎の裏側でリンパ球を産生する胸腺、
肺の間にある矢印部分



減少するのでしょうか？

がんが罹患した人のほとん
どは、大きなストレスとの関
わりを肯定しています。

あるレベルを越えるストレ
スが肉体にかかることを「超
特異的交換神経作用」と呼び
ますが、このような状態が長
期間肉体に作用することで、
体は酸化します。

自然医学総合研究所所長 大沼 四郎



がんの 盲点⑫

ストレスを受けた当初の骨
格は、右の骨盤(腸骨)から
狂いだし、進行することで、
脊柱全体から鎖骨や頸椎まで
広範囲に歪みをもたらしま
す。

リンパ球の中でも、がんか
ら守るTリンパ球は、胸椎の
裏側にある「胸腺」という小
さな臓器でつくられています
ので、骨格の歪みが大きくな
ることで、胸腺の栄養血管や
胸腺自体が萎縮するため、機
能が低下し、胸腺由来のリン
パ球をつくるのが出来なくな
ります。

特に、第一肋骨と鎖骨の間
を結ぶ肋鎖靭帯が骨化するこ
とが多く、癒着しているケー
スでは胸腺の機能障害は進行

問い合わせ
電話
052・801・7063
Eメール
shiro@nrt.ne.jp
URL
http://www.nrt.
ne.jp

し、胸腺も退縮しています。
こいつた状態でリンパ球を
つくるのが出来なくなつて
いるのですが、歪みと発病の
研究は皆無のため、大きな盲
点となっていることを指摘し
なくてはなりません。

従って、輸血などに頼る前
に、鎖骨と肋骨の癒着を改善
することが重要です。癒着が
改善されることで、再び胸腺
に血液が循環しますので、必
要に応じてリンパ球はつくら
れるようになります。

このようにして胸腺が回復
することによって、さらに「抗体」
をつくる

ことが出
来るよう
になりま
すので、
アトピー
性皮膚炎
やアレルギー
の体
質や喘息や肝炎の方にも応用
できます。

従って薬で抑制することだ
けにこだわらず、リンパ球が
正しく動きやすい体質を維持
することにも留意して健康管
理をしてもらいものです。

がんの再発、便秘、不整脈、
無呼吸症、眼りが浅い、自立
神経失調症、冷え、頻回排尿、
痛みやしびれが長引くなど不
安な方は、早めに相談して
ください。

(名誉医学博士・生化学博
士・平成11年度社会文化功勞
賞受賞・ナチュラルケアセン
ター院長)
す。(次回は2月6日に掲載し

自然治癒を科学する